

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：82668

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02152

研究課題名(和文) 都市公園を核とした地域観光振興の可能性に関する研究

研究課題名(英文) A study on possibilities of promoting regional tourism based on urban parks

研究代表者

平松 玲治 (Hiramatsu, Reiji)

一般財団法人公園財団(公園管理運営研究所)・その他部局等・上席主任研究員

研究者番号：50455482

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：都市公園では歴史資源、自然資源、既存の施設等を活用することにより、地域を代表する観光地として多くの観光客を誘致することが期待される。本研究では、都市公園が核となる地域観光振興の可能性について検討した。都市公園を対象とした管理運営実態調査、ヒアリング調査、並びに文献調査を行うことにより、都市公園の地域観光振興に必要な管理運営の諸条件について整理を行った。更に、地域における観光資源の保全、観光利用の拠点化、課題の解決の面から観光振興に寄与する公園管理の方法とその課題について示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市公園における観光利用の新たな可能性を拓くことで、地域や公園を訪れる多くの観光客に喜ばれるための方法を提示することで、都市公園及び観光の分野で応用や展開することが期待される。本研究結果をもとに公園を核とした地域観光振興が実現させることで、国民の財産である地域の資源を適正かつ持続的に保全するとともに、人の交流や地域課題の解決による地域活性化をもたらす、広く社会に貢献できると考えられる。

研究成果の概要(英文)：It is expected that urban parks will attract many tourists as tourist destinations in surrounding regions through utilizing their own historic resources, local natural environments and existing facilities. In this study we examined possibilities of promoting regional tourism based on urban parks. We investigated park management in Japan through questionnaire, literature and interview surveys. Based on these survey results, we have organized requirements for the park management necessary for promoting regional tourism. We also showed methods contributing to promote regional tourism and their problems in terms of conserving tourism resources, creating tourism bases and solving regional problems.

研究分野：造園学

キーワード：都市公園 観光 地域振興 課題解決 公園管理 方法論

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

観光は、国内外からの交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させるとともに、国際社会での日本の地位を確固たるものとするためにも、極めて重要な分野である。また、都市公園は、国民の多様なニーズに対応するための基幹的な施設であり、安全・安心な都市づくり、コミュニティの拠点づくり、良好な自然的環境の保全・創出、地域の個性を活かした観光振興などに重点が置かれている。観光と都市公園はともに重要な分野であり、かつ地域の活力等の共通性があるにも関わらず、観光学で都市公園を対象とした研究はまだ少ないため、新たなアプローチによる研究が必要である。そこで、多様な条件の都市公園にも適用するとともに、公園利用の面で需要と供給の状況把握や分析に基づき、管理運営の面から公園の周辺地域との連携による公園マネジメントの実現が可能である「都市公園を核とした地域観光振興の方法論」を構築し、実践に移行するべきだと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、観光資源としての都市公園の可能性と公園を核とした地域観光振興のあり方について考究することを目的としている。広域公園では樹林地や水辺等の「自然資源」、歴史公園では文化財や歴史文化的景観等の「文化・歴史資源」を有するなど、都市公園という既存の施設を活用することにより、地域を代表する観光地として多くの観光客を誘致することが期待される。一方、都市公園は周辺住民の利用に供する公共施設という側面もあるため、地域の観光振興を進めるには公園単独ではなく公園を内包する地域とともにまちづくりやマネジメントを考える必要がある。そこで、社会資本である都市公園の存在価値、利用価値の向上をはかるとともに、ストックを活用した持続可能な観光に貢献すべく、都市公園が核となる地域観光振興の方法論を構築する。

3. 研究の方法

研究方法は、都市公園全般の傾向を把握するため、既存の調査研究結果による文献調査等により、公園管理における観光への取り組みの現状を把握し、課題を整理した。更に、研究対象として選定した7箇所の都市公園において、管理担当者を対象としたヒアリング等を行う現地調査により、公園のマネジメントから見た地域観光振興の現状と課題を整理した。これらの結果をもとに、地域観光振興に寄与する公園マネジメントに必要な諸条件を確認することにより、地域観光振興の方法を構築し、他の都市公園への適用するための実施内容や留意点を検討する。以上の研究成果を踏まえ、多様な公園に適用可能となる都市公園を核とした地域観光振興の方法論を提示した。

なお、研究を進めるに当たり、都市公園を核とした地域観光振興を構成する具体的な方法論を提示する必要がある。そこで、研究の背景や既往研究の動向を踏まえて、「都市公園が地域の観光資源の「中心」となる観光振興」「都市公園が地域の観光利用の「拠点」となる観光振興」「都市公園が地域の課題解決の「中枢」となる観光振興」という三つの課題を設定した。

4. 研究成果

(1) 都市公園における観光利用の特性

都市公園では、これまでも観光への取り組みが行われ、観光客の利用があった。全国の都市公園における実態を見ると、観光客の動向ではインバウンドの割合がまだ低い、観光目的では花の観賞、施設利用、イベント参加が多い等、公園が担う都市住民に対するレクリエーションの供給と特徴が近似していた。一方、観光の特徴は、レクリエーションと比べてこの場所（観光地）でしか経験できない等の「非代替性」の高さや、複数の目的地を訪問する「回遊性」を有すること等があるため、一般の公園利用との違いを踏まえて、都市公園における観光振興を考えなければならぬ。また、都市公園での観光利用（行動）としては、「見学・観覧」「体験」「遊び・娯楽」が中心となり、一般の観光客がおもな観光目的とする「宿泊」「入湯（温泉）」「食事」「土産等の「買い物」の利用については少ないことも特徴としてあげられる。

(2) 都市公園の地域観光振興に必要な諸条件

都市公園の地域観光振興に必要な諸条件として、観光振興を構成する「要素」と要素に含まれ観光振興を実現させる「観光の取り組み」があり、それらを勘案した上で各種方法の計画や実施を進めることが求められる。

都市公園における観光振興の要素は、観光主体、観光資源、観光客、観光の取り組み、観光の波及効果であるとし、これらの内容及び留意点について整理した。観光要素を観光マーケットの観点から見ると、観光需要に相当するのは観光客であり、観光供給に相当するのは主体及び観光資源である。

都市公園における観光振興を実現させるための具体的な取り組みは、現状把握・効果測定、観光資源開発、観光プロモーション、観光サービスであるとし、これらについて整理した。都市公園における観光振興の取り組みは、現状把握としての利用者に対するアンケート調査、観光資源開発としてのイベント企画・実施、観光プロモーションとしての広報宣伝等、従来から都市公園にて情報収集や利用促進策の一環で行われており、観光分野に特化した手法を加えている、もし

くは加えることを検討しているのが実態である。

(3) 都市公園における地域観光振興の方法論

①資源中心型地域観光振興の方法

都市公園において、観光客にとって魅力的な空間を創出する、新たなイベントを企画し実現するなど、観光資源（もしくは観光アトラクション）を創造することや、都市公園が有する自然資源や既存の施設を利用促進に活かす、長年にわたって開催されている恒例のイベントを継続するなど、観光資源を保全・活用することで地域の観光振興に寄与する方法が確認された。特性としては、公園内にある地域を代表する自然や施設等の資源を活かすことができること、公園が中心となって実施されるため公園が観光事業等を主導できる等の利点がある反面、留意点として地域の有するニーズや課題の解決に直接反映しない場合もあること、地域が先導する事業や活動に対して受動的となる傾向等があると考えられる。

具体的な展開事例をあげると、ハード面ではネモフィラ等の新たな花の材料を導入した修景、トレイルランニングのように森林内の坂道等の利用されない場所におけるスポーツ大会の開催、冬季における積雪を活かした雪遊び場の造成等が考えられる。ソフト面では遺跡や展示物等の既存施設を案内解説するガイドツアーの開催、公園内や施設を会場としたイルミネーション等の魅力的なイベント開催等が考えられる。

このように、都市公園内にある観光資源を創造もしくは保全・活用することで地域へ影響を及ぼす観光振興のあり方を、「資源中心型地域観光振興の方法」とした。

②利用拠点型地域観光振興の方法

都市公園が地域を先導して積極的な観光プロモーションを行う、都市公園（庭園）も含めた歴史・文化的な遺産等の地域全体で共有する資源を活かして回遊性を高める、都市公園の再整備等により都心部の人の流れを変えるなど、都市公園が地域の観光利用の拠点を形成する観光振興の方法が確認された。特性としては、観光客の増加により地域活性化等の地域課題の解決に公園が貢献できること、地域と連携することで小規模の都市公園でも観光振興に参画できること等の利点がある反面、留意点として管理運営よりも再整備等によるハード面の影響を大きく受けること、人の移動にともなう交通対策・安全対策を充実させること、資源の保全のために過密な利用の制限に考慮する必要があること等が考えられる。

具体的な展開事例をあげると、ハード面では老朽化・陳腐化した公園施設にアートや、絵本の物語、キャラクター、アニメなどのコンテンツを取り入れることで、個性ある再整備（リニューアル）を行う、ソフト面では公園と地域が連携したツアーや関連商品の開発、地域内の史跡・庭園・花の名所等を回遊するツアーの開催等が考えられる。

このように、都市公園の観光利用を促進することで都市公園から地域への人の流動を促す観光振興のあり方を、「利用拠点型地域観光振興の方法」とした。

③課題解決型地域観光振興の方法

地域の抱える課題の解決に寄与した成果を都市公園の観光振興に活かす方法が確認された。地域課題の解決には、地域で営まれていた産業や景観を公園内で継続・再現する、公園内で行う環境保全の取り組みを市民に啓発するなど、地域が抱える環境・景観保全の課題を都市公園が中枢となって貢献する場合と、公園を地域住民の軽スポーツの活動や健康づくりの場として活用する、子ども連れで利用できるために公園の施設やサービスを充実させるなど、地域が抱える少子・高齢化対策等の課題に対して都市公園が一部を担う場合がある。特性としては、オープンスペースや多様な施設を有する等の公園の存在効果を地域課題の解決に発揮することができること等の利点がある反面、留意点として地域課題を解決する中枢を担う場合は少なく一部を担う場合が多いこと、課題解決が直接的な観光振興の成果を生み出しにくいこと等が考えられる。

具体的な展開例をあげると、公園内に保全・再現した農地・果樹園等を活用した体験型プログラムの提供、地域内の希少な動植物を保全した成果を環境学習プログラム化する、地域の専門家との連携による健康づくり・子育て支援をテーマとしたイベント開催等が考えられる。

このように、都市公園が主体もしくは一部を担うことにより、観光を通して住みやすい地域づくり（観光地域づくり）を進める観光振興のあり方を、「課題解決型観光振興の方法」とした。

4) 都市公園を目的地とした観光旅行（ツーリズム）適用の可能性

ニューツーリズム等の新たな観光のあり方をいくつか取り上げ、地域観光振興の観点から都市公園を目的地とした観光旅行（ツーリズム）への適用の可能性について検証した結果、適用可能性が有るとして評価された6つのツーリズムの、フラワーツーリズム、スポーツツーリズム、ガーデンツーリズム、ヘリテージ（歴史）ツーリズム、グリーンツーリズム、エコツーリズムについて、実施に際して観光要素から具体的な内容と留意点について示した。

(4) 今後の課題

都市公園の観光利用に関わる課題として、新型コロナウイルス感染症の拡大等による社会的な変化への対応、ICTやロボット等による新技術の導入と活用、医療・運動・スポーツ・福祉・子育て・防災等の他の多様な分野との連携・協力が考えられる。また、都市公園を核とした地域観光振興の方法における実用化の課題として、地域課題の解決の中核から観光振興への発展、小規模や観光資源が無い等の条件でも観光振興を実施できる公園の拡大、観光の波及効果等に適用できる客観的な評価方法の確立が考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 平松玲治・青木明代・嶺岸さゆり・平塚靖司・佐藤健太郎	4. 巻 10
2. 論文標題 国営滝野すずらん丘陵公園における冬季利用の活性化方策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究増刊造園技術報告集	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平松玲治・青木明代・嶺岸さゆり	4. 巻 12
2. 論文標題 都市公園を活用した観光振興に関する考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶺岸さゆり	4. 巻 12
2. 論文標題 メルボルンの公園におけるハイガシラオオコウモリの保全の取り組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木明代・平松玲治	4. 巻 12
2. 論文標題 人口減少時代の地方都市における個性ある公園づくりについての考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平松玲治・嶺岸さゆり	4. 巻 11巻
2. 論文標題 指定管理者等による地域振興に寄与する管理運営に関する考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平松玲治・青木明代	4. 巻 11巻
2. 論文標題 観光から見た都市公園における利用の現状と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶺岸さゆり・平松玲治	4. 巻 11巻
2. 論文標題 シカゴのミレニアムパークが都心の活性化に果たした役割について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木明代・平松玲治	4. 巻 11巻
2. 論文標題 子育て支援の視点による都市公園における情報提供のあり方に関する考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 40-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平松玲治	4. 巻 34
2. 論文標題 観光地化の進行と都市公園に対する関心の変化：国営常陸海浜公園を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 221-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平松玲治・青木明代	4. 巻 13
2. 論文標題 都市公園における観光に対する取り組みの現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平松玲治・嶺岸さゆり	4. 巻 13
2. 論文標題 沖縄美ら海水族館における観光振興の取り組みに関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嶺岸さゆり・上野知拓・平松玲治	4. 巻 13
2. 論文標題 健康づくりに寄与する都市公園における取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公園管理研究	6. 最初と最後の頁 31-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 平松玲治
2. 発表標題 公園をマネジメントする仕事 - 公園財団での事例を中心として -
3. 学会等名 二葉会（千葉大学園芸学部造園学科OB会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平松玲治・柴田隆一・山野浩嗣
2. 発表標題 文京区立肥後細川庭園における地域観光振興の取り組み
3. 学会等名 日本造園学会関東支部大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青木 明代 (Aoki Akiyo) (10638779)	一般財団法人公園財団（公園管理運営研究所）・その他部局等・主任研究員 (82668)	
研究分担者	嶺岸 さゆり (Minegishi Sayuri) (60795219)	一般財団法人公園財団（公園管理運営研究所）・その他部局等・主任研究員 (82668)	